**原著**

**論文区分：14 ポイント（太字ＭＳゴシック）、枠で囲み前後に半角スペース。和文表題までは14 ポイント行間０で4行あける**

**早期認知症と和文表題14 ポイント（太字ＭＳゴシック）に関する検討**

**ＭＭＳＥとＭＲＩ 和文副表題12ポイント（太字ＭＳゴシック）診断**

**和文著者名11 ポイント（ＭＳ明朝）,所属の］は半角の ］を使用**

**著者間にはカンマ不要**

**11 ポイント（ＭＳ明朝）で1行あける**

認知症　太郎1,2] 認知症　次郎2] 認知症　花子3]

**Analysis of 英文表題　12 ポイント（太字Times New Roman） degree of cognitive impairment**

**Diagnosis of 英文副表題名11 ポイント（太字Times New Roman） and MRI**

Taro Dementia1,2]  Jiro Dementia 2]  Hanako Dementia3]

**英文著者名11 ポイント（Times New Romans）**

**「抄録」　目的：本文（9ポイント、ＭＳ明朝）。600字以内。対象と方法：**認知障害を主訴として受診**｢抄録｣は10.5ポイント太字明朝ＭＳ。一文字スペースを入れ本文を続ける。**した症例○○例に対して・・解析をした。**結果：**MMSEと早期認知症の間には・・・・・・・・・・・。**結論：**早期認知症では、認知機能障害の・・・・・・可能性がある。

**「Abstract 」 Objective:** The study was**本文（10ポイントTimes New Roman）。250語以内**to assess the efficacy **｢Abstract｣は（10.5ポイントTimes New Roman）、一文字スペースを入れ本文を続ける**・・. **Methods:**102 patients　were analyzed・・・・and were involved in the study.・・・.**Results:**Statistical analysis of・・・・・ revealed significant correlations　between Aand B.・・・. **Conclusions:** It may play a role in monitoring disease progression in the earl stage of dementia.

**Key Words :** MMSE, ○○○, ○○, MRI, 早期認知症

**Key Words: （10.5 ポイント太字Times New Roman）半角スペース挿入後、日本語（10.5ポイントMS明朝）又は英語（10.5 ポイントTimes New Roman）で５語以内。ワード間には、半角カンマ**

**11 ポイント（ＭＳ明朝）で最低2行あける。十分な余白がある場合にはここから本文を書きはじめてもよい**

1] 東都大学医学部　**和文所属10 ポイント（ＭＳ明朝）**老年○○学講座

Toto University**英文所属10 ポイント（Times New Roman）**, Department of **○**, Division of **○**

2] △△△クリニック,　　△△△ Clinic

3] ●●株式会社　　, ●● Co., Ltd

**左右均等配置となる割線（実線１ポイント）をひく**

**１．はじめに**

**章の見出しは、中央に置く10.5ポイント（太文字　ＭＳ明朝）**

本論文誌は、早期認知症に関する基礎的・臨床的研究であり、早期認知症の予防・診断・リハビリに寄与すると認められるもの、ならびにこれに関連ある領域の内容と規定されている1。 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○2－4。

**２．対象と方法**

**２．１**　**対　象**

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○

○○○○1-3,5○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○

**２．２．１　　患者の選定**○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

**図タイトルは和文または英文表記とし、通し番号を付け、図の下部に記載する。軸には明瞭に名前をつけ、測定値の単位を明示する。図中に統計学的に有意な点を示す場合、注釈は図の直下に記載**

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

**２．２．２　　治療方法**以前記述したように6-7、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

**３．倫理的配慮**

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

**４．結　果**

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

**通し番号を付けた和文または英文タイトルを、表の上部に記載する**

**５．考　察**

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○との報告がみられる2,3,7。　○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

本多らによると○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○5，9，10。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

**６．まとめ**

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○10，11。

**謝　辞**

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

**利益相反**

本論文に関して開示すべきCOIは・・・・・。

**参考文献**

\_1.花田太郎. 大脳皮質基底核変性症（CBD）について.医療　2222;99(9):991-90．

[文書の引用文や注目すべき箇所の要約を入力してください。テキスト ボックスは文書のどの位置にも配置できます。抜粋用テキスト ボックスの書式を変更するには、[描画ツール] タブを使用します。]

**表の罫線は必要な横線のみとし縦罫線は使用せず空白を置く。・表注は表の直下に記載**

2.北岡哲子,宇治橋貞幸,工藤千秋　他. 認知症患者の表情に現れる特徴の抽出法に関する研究. 日本早期認知症学会誌 2013;6(1): 71-77.

[文書の引用文や注目すべき箇所の要約を入力してください。テキスト ボックスは文書のどの位置にも配置できます。抜粋用テキスト ボックスの書式を変更するには、[描画ツール] タブを使用します。]

3.Geller AC, Venna S, Prout M, et al. Should the skin cancer examination be taught in medical school. *Arch Dermatol*. 2002;138(9):1201-1203.

**引用文献番号はMS明朝10.5フォントとし、文献番号1-9までは、半角スペース　半角番号　半角ピリオッドを入れ、スペースなしで著者名を記述する。各引用文献の2行目以降は、著者名に合わせてタブを移動し設定する**

4.The Euro Guidelines Group for HIV resistance. Clinical and laboratory guidelines for the use of HIV-1 drug resistance testing as part of treatment management: recommendation for the Europian setting. AIDS. 2001;15(3): 309-20.

**引用文献が英文の場合にも、引用番号はMS明朝10.5フォントとする**

5.大田恵美子、長坂高村、新藤和雅　他.ニューロフェリチノパチーの１家系. In 第４８回日本神経学会抄録集.東京.9.8-10.1.2005.

6.Gage BF, Fihn SD, White RH. Management and dosing of warfarin therapy.　The American Journal of Medicine. 2000; 109(6):481-488.doi:10.1016/S0002-9343 (00)00545-3.

7.Aggleton JP. Understanding anterograde amnesia: disconnections and hidden lesions. *J Exp Psychol*. 2008; 61(10): 1441-1471. http://search.ebscohost.com/login.aspx?direct=true&db=pbh&AN=34168185&site=ehost-live Accessed March 18, 2010.

8.独立行政法人福祉医療機構. 介護事業者情報.　[http://www.wam.go.jp/ kaigo/. 11月5日](http://www.wam.go.jp/%20kaigo/.%2011%E6%9C%885%E6%97%A5), 2011.

9．Smith SF, Duell DJ, Martin BC et al.(河原礼子、山内豊明、山田友恵他訳).看護技術－目で見る辞典.初版.東京：西村書店：2006.

10.松井真.髄液の免疫モニタリング. 田中正美,湯浅龍彦編.２１世紀の免疫学.東京：医歯薬出版.2001：22-6.

11.川合充編.筋ジストロフィーとリスク・クライシス管理.厚生省精神・神経疾患研究委託費.筋ジストロフィー患者のケアシステムに関する総合研究「リスク管理とネットワーク」分化会.2000.